

津都市第1122号の2

平成20年10月15日

国土交通省道路局長 様

津久見市長 吉本 幸司



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で提出依頼のありました標記の件について、別紙のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

大分県津久見市

【地方にとっての道路の位置づけ】

地域浮上の鍵を握る重要な施設であります。

生産地と消費地を結ぶことによる一次産業の発展、地域資源や製品を輸送する手段としても欠かせない公共施設であるとともに、地域内においても生活者の安全や地域の活性化に結びつくものであります。

【改善すべき点、要望や提案など】

道路整備は地方財政に大きな負担となっております。

「補助・助成制度」の採択の緩和、「補助率・助成率」のアップをお願いしたい。

費用対効果で現れなくても地方の生活道路は、真に必要な路線があります。

費用対効果も必要ではありますが、生活の実態を考慮した採択も必要であると思います。

そして、ストック路線の維持管理費も年々増加しておりますので、維持管理費に対しての助成制度の確立もお願いをしたい。

今後の道路行政についての意見・提案

様式②

②－１ 地域の現状と抱える課題

大分県津久見市

現状	課題
平成 13 年 12 月に東九州自動車道が津久見まで開通したが、津久見 IC から市街地（耐震バース）までのアクセス道路は線形も悪く幅員も充分でないの で、バイパス工事が必要である。 道路網確立に向け順次幹線道路の整備を図ってい くが、まちづくりの観点から上記バイパスと一体的 整備を行う路線が必要である。 生活道路は老朽化が進み、市民の安心・安全の確 保のため、改修や維持管理が必要である。	・ルート選定に当たり、コントロールポイントが多い ・補償物件の移転先地の確保 ・路線の都市計画決定 ・ルート選定に当たり、コントロールポイントが多い ・周辺地権者との合意形成 ・対象事業の選択 ・路線の都市計画決定 ・財源確保の為、助成制度の確立

津久見市にとって道路整備は地域浮上の鍵を握っていると言っても過言ではありません。

東九州自動車道津久見 IC と津久見市街地（耐震バース）を結ぶアクセス道の整備、高規格道路へのアクセス道となる県道「津久見野津線」の整備、それぞれのアクセス道路を含む道路網の整備、半島部を災害時から守る道路整備、離島を結ぶ保戸島架橋の整備、市民に密着した生活道路の整備を行い、市民の安心・安全の確保と共に道路周辺の土地活用によるまちづくりと、「木質バイオマス利用施設」「都市ごみ焼却灰のセメント資源化システム」等のエコ産業による循環型社会の構築を進める。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

大分県津久見市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	・国道 217 号つくみ IC・松崎間バイパス工事 ・市道水晶山線新設工事	・東九州自動車道つくみ IC から市街地（耐震バース）への誘導の安全性向上並びに、市道整備と併せた道路網の確立により住民の安全、安心の確保と、周辺整備により地域活力の向上に資する。	
・大規模な地震、火災に強い国土づくり	・国道 217 号つくみ IC・松崎間バイパス工事	・東九州自動車道つくみ IC と大分県唯一である津久見港の耐震バースを結ぶことにより海上運搬の拠点からの物資輸送手段が確立し、災害時等の対応に効果大	